

第3回 昭島市男女共同参画推進委員会

議 事 要 旨

〔日 時〕 令和4年9月16日（金）18：30～20：00

〔場 所〕 アキシマエンス校舎棟 303 会議室

〔出席者〕

1 委員

柴田邦臣委員長、掛川亜季副委員長、岡部操委員、若林とき子委員、牧野愛子委員、向井翔兵委員
欠席委員：小林美和委員、長谷部高史委員

2 事務局

滝瀬子ども家庭部長、渡辺女性活躍支援担当課長、渡邊男女共同参画センター担当係長

3 傍聴者 0名

〔配布資料〕

1 第2回昭島市男女共同参画推進委員会 議事要旨

2 昭島市男女共同参画プラン 令和3年度進捗状況報告書 委員会評価入

3 昭島市男女共同参画プラン 令和3年度進捗状況委員評価及び意見一覧

4 昭島市男女共同参画プラン 年次評価報告書【平成30年度 進捗状況】

〔議事要旨〕

1 開会

事務局より資料の確認及び説明

前回委員会でのご質問に関する、主管課の回答をお伝えする。進捗状況報告書No.57、58に関して、健康課が担当課評価Cに対して評価の理由欄には「受診率向上に努めた。効果的であった。丁寧な対応ができた。」という記載内容があった部分である。

Cの評価基準は「ある程度の成果（関連）はあったが未だ課題が残る」というものである。

No.57の「生活習慣病、介護予防対策の充実」は骨密度、動脈硬化測定数は増加し、特定保健指導等への利用を進める機会とはなったが、測定して終わるのではなく、専門職としては医療に繋げていく必要性を重要視しており、そのフォロー体制が大きな課題であるためCとした。

また、No.58「こころの健康に関する相談支援の充実」は、10代への普及啓発は進み、相談件数も増加しているが、コロナの特徴を捉えたマンパワーを含めた、相談支援体制を整えていないことが課題となっており、今年度は自殺対策ネットワークも立ち上げ、関係各所と連携を取ることでなっているが、充実した支援体制について課題があると考えているため、Cとしたとのことである。

☆本件に関してさらにご質問や確認はあるか。

報告書を確認したところ、主管課毎に自己認識がずれるところがあり、担当課評価が甘い部署と厳しい部署がある。仕方ない部分もあるが、ある程度均一にしていけると良いと思う。 来年以降も推進委員会で確認できるので、その辺を考慮しながら、コメントをつけていきたい。【柴田委員長】

2 議題

（1）男女共同参画プランの総合的な評価及び提言のまとめについて

◇本日ご審議いただくにあたり、お手元の昭島市男女共同参画プラン年次評価報告書【平成30年度進捗状況】に基づきこれを参考にご説明をさせていただきます。

P2～4 中段までの全体の評価及び提言や「1.平成30年度進捗状況について」は、これま

での会議でご審議いただいた皆様のご意見を主要施策ごとにまとめ、記載させていただく。P4 後段からの「2. 各目標における総体的な評価」及び P6 からの「3. 年次進捗状況を踏まえた課題の整理」について、本日ご審議いただき、委員会として、総体的な評価、課題、要望を決定していただきたい。進捗状況報告書部分は今年度皆様からいただいたご意見を抜粋して掲載し、事務局で作成する。【事務局】

☆以上のことを考慮しながら、委員からコメントや質問をいただく。一般に重要になるのは P6 のような、それぞれの年度の課題をどう提案していくかということである。昨年はオリンピックパラリンピックが終わり、COVID もあったが、多文化共生ということを前面に押し出して提案していた。また、待望の男女共同参画センターができ、具体的にどのように活用していくかということになる。今年度も、色々と状況報告にもあったと思うが、ぜひ議論していただきたい。ワーク・ライフ・バランスについて表現にもご意見があったが、経済的な部分でも重要な論点がある。私達のコメントが重要な課題となると思う。総合的な推進として庁内会議や組織を統合していくことが大切なこととなっている。【柴田委員長】

◇本日の委員会では、以前の年次評価報告書のように、施策目標4点の総体的な評価について、どのような観点を挙げれば良いか。また、課題は何について、いくつ挙げるかおおまかにご審議いただきたい。委員会の会議開催回数が少ないため、年次評価報告書の内容については、メール等により、確認させていただく。【事務局】

★経年変化が分かるような数値、今回の達成率が分かるような資料はあるのか【掛川副委員長】

◇令和3年度に新しい男女共同参画プランが策定され、今年度が進捗状況確認の初年度となるため経年のものはなく、また主要事業、担当課ごとの達成率についての数値はない。【事務局】

☆総体的な評価の目標はあまり変わらないと思うが、課題についてはその年によって違うと思うので、年次評価報告書に記載してほしい内容について、強く希望する部分や、副委員長からあったように、年次評価報告書の作成にあたり、必要と思われるポイント等についてご意見をいただきたい。【柴田委員長】

◆男女共同参画センターが開設され、より良くなるよう運営してほしい。【牧野委員】

◆目標 I-1-②学校現場でもSDGsに基づいた教育が展開されており、とても大切である。④No.6「ジェンダーにとらわれない意識の啓発・広報」も非常に評価していくべきと考える。例に挙げれば、以前はランドセルの色は男子が黒、女子は赤であったが、現在は女子がパープルである。施策2の人権についても重要な部分である。全ての活動に人権というフィルターを通すことが大切であり、外すことはできないと考える。【岡部委員】

★目標 I について、岡部委員の意見に賛同する。全体として、啓発の推進に力を入れている印象である。No.6 ジェンダーの啓発は引き続き行っていただくことが、他の全ての部分に影響してくると思うので継続してほしい。施策3の「多様性への理解の促進」については、性的マイノリティへの理解等まだ新しい施策ということもあるので、引き続き取り組みを続けてもらいたい。男女共同参画センターが整備されたことによりNo.40等にある相談体制が充実したのではないかと。施策5「働く場におけるワーク・ライフ・バランスの実現」では見方の問題として、全ての人々に対しての施策になっていないのでは、ということもあり、課題ではないか。目標IV「すべての人が安全・安心に暮らせるまちづくり」では、防災の女性の参画について、平成30年度もそうであるが、どういう形で改善が図れるか工夫し、女性委員の割合を増やすために充て職の場合の推薦の方法を検討する等、具体的な方策が必要であると考えます。【掛川副委員長】

◆女性活躍とワーク・ライフ・バランスを見たときに施策6-①「子育て支援サービスの推進」は現在の少子化の状況から、子育て支援サービスの充実は非常に大事である。学童の待機児童の解消等しっかりと見ていく必要がある。ほかに③男性の家事、育児、介護等の参画は女性の活躍のためには必要である。No.35.36

の啓発も含めて記載していただきたい。【岡部委員】

- ◆ワーク・ライフ・バランスや男性の育児休業の取得について、職場が数字を上げるために、育児休業等の声掛けをした場合、該当者は休業等を取るかもしれないが、人が抜けた分残された人に仕事の負担が増えてしまうのが実情である。全員が仕事と生活の両立を図り、不平不満が出ない方策も考えて行かないと社会全体の男女共同参画とはならないので、その部分を記載してほしい。【向井委員】
- ◆目標Ⅲ-②「若年層への意識啓発と教育の推進」は大切である。教育現場では学習指導要領に定められた中でしかできないということがあり、市でリーフレット等や広報活動を色々な部署と連携し、啓発することが重要である。既に子ども達の多くが携帯電話を持っている。フィルタリングもかかっていない場合もあり、情報は過多であり、子ども達は大人が考える以上に情報を得ている。そのため、啓発が重要である。施策も色々実施しているので良いと思う。8-①「ストーカーの被害防止」も大切である、時折、情報漏洩に関する事件もニュースに上がることがある。情報漏洩が起きないように、情報の管理も合わせて重要である。【岡部委員】
- ◆全体を通して啓発の参加人数と予算にばらつきがある。そして、育児環境は昔と比べ大きく変わってきているので、より良い子育てのためには親のためのより良い講座も必要である。講座を開催するのならば、多く人が来るとともに、意味のある講座を開催することが全体の意識が上がるために必要であると思う。保護者の目線からも、自分の子ども達の様子を見ていて、メディア・リテラシーは大変重要であると考えている。昔であれば雑誌等を購入する場合にも店主の目があったりするが、現在はそのようなことが無くネット等で情報を得られてしまう。あまり年齢の早い段階から過激な情報を得ると、偏った性的嗜好を持つのではないかと危惧している。【牧野委員】
- ◆SNSは大きく普及している。小学校では遅く、幼稚園保育園からの啓発が必要ではないか。【岡部委員】
- ◆参加人数とデートDV等の防止ということでも効果の上がる講座の開催を検討してほしい。【牧野委員】
- ☆メディア・リテラシーということであるが、直接啓発できるような事業が昭島市では十分ではないと思うので、ぜひ報告書に盛り込み、必要なコメントとして記載してほしい。【柴田委員長】
- ★講座の内容は、性被害防止や男女共同参画、偏見・暴力の防止のために重要であり、一方で家庭ではどのような性教育をすれば良いか分からないということも認識している。No.52「年代に応じた性教育」とあり、No.53「Hi, あきしま」の生理の貧困等の内容も良いものであったが、引き続き市として性教育、DV防止の部分を積極的に取り組んでもらいたいので、メッセージとして入れていただきたい。【掛川副委員長】
- ☆目標Ⅳ-No.52、53では、性教育をどう考えるかが最近の重要なテーマになってきているが、まだ十分に組み立てていない部分があると思う。実施した場合も学外、保護者向けであったりするので、その部分をコメントとして取り入れてもらいたい。【柴田委員長】
- ◆男女共同参画の事業効果を見る中で、国が実施する部分と市が実施する部分があると思う。セミナーで人を集めたり、リーフレット等の配布は市の部分で、そういうところを見なければならないと思う。過去も色々実施しているが、実施後の検証が必要である。幅広い内容を実施しなければならないので、全てを実施することは難しい中、限られた予算で効果的なセミナーを実施するには精査が必要である。リーフレットも置いてあるだけである場合も多いので、何部手に取ってもらえたか、また、効果はあるのかを検証し、内容を変えることや取り止める等の精査をする必要がある。【向井委員】
- ◇以前、牧野委員等からアナログという手段も有効ではとのご意見があったため、中神駅と拝島駅の橋上掲示板があるので、男女共同参画センターのパンフレットを持ち帰ることができるよう設置した。一度に無くなるわけではないが、補充が必要なペースで受け取ってもらっている。手元に届く、見ていただくということが一歩であると認識している。リーフレットを手にとったからと言って相談にすぐに来ていただけるとは考えてはいないが、ここにきて悩みごと相談等の件数は増えている。アナログな部分も今年度実施しているので、セミナー講座等も主管課と調整していく。【事務局】

◆男女共同参画センターの相談に電話をかけたことがあるが、以前はいつでも相談可能ということであったが、先日は先まで予約が埋まっていた、どの手段で広がっているのかは不明だが、相談窓口が機能していることは、そこから次の対応に繋げていけるので、とても大切である。センターができた意味があったと思う。【牧野委員】

☆事務局の報告であったチラシの効果があるのかもしれない。相談者が多いということは良いこととは言えないが、相談窓口業務が機能していることが解決につながることであるので、効果の一つと言える。【柴田委員長】

◆目標Ⅳ「すべての人が安全、安心に暮らせるまちづくり」は、担当課評価はいずれも70%以上で良いかと思う、ただその中で9-③「こころの健康に関する支援」は66.7%である。コロナ禍で地域コミュニティ等が希薄になっているのではないか。本学校区も夏祭りはほぼ中止となるなど、コミュニケーション不足や孤独死の問題等も浮かび上がっている、このコロナ禍ではさらにしっかりと取り組む必要がある。ほかに70%は超えていても、No.63「生活困窮世帯等の子どもへの支援」について、最近はヤングケアラーが問題になっている、子ども食堂や様々な地域の方が支援を行っているので、こちらの支援についてもしっかりと打ち出していきたい。また、施策11「防災・環境分野等のまちづくりにおける多様な視点の反映」は全て70%以下である。委員の選出が地域役員等の充て職となると男性が多くなってしまいうため、女性を一定数入れる等の進言は有効だと思う。このような男女共同参画推進委員会があるので、発信することは大事である。【岡部委員】

☆最近注目されている案件について多くのご意見をいただいたので、ぜひ盛り込んでいただきたい。【柴田委員長】

◆目標Ⅰ-3「多様性への理解の促進」について、最近はLGBTQで表記していることが多いが、昭島市はQが入っていない理由があるのか、Qの方からLGBTと書かれるとQが表記の中に入っていないため、マイノリティの中のマイノリティということで少し傷付くという話を聞いたことがある。【牧野委員】

◇国や東京都でもQを入れた表記までいかないという現状である。この男女共同参画プラン策定時はQを記載するまでに至っていなかった。【事務局】

☆概念として難しい部分はあるが、それが排他的なイメージになってはいけない。用語に関しては事務局で行政用語というものもあると思うが、整合性をとって妥当な表現を提案してほしい。【柴田委員長】

◆国が表記するようになったら、倣って表記する等対応してほしい。【牧野委員】

◇その時点で対応を検討したい。【事務局】

◆評価報告書については、目標毎に課題の設定を正対させ、同じ目標の中で複数あれば、項番を振ったものが見やすいと思う。【岡部委員】

◆子育て部分等も岡部委員に賛同する。良いと思う。【若林委員】

★委員の皆様、事務局に感謝申し上げます。【掛川副委員長】

☆今年度は3回に渡りご議論いただき、感謝申し上げます。

来年度の委員会では、今年度の年次評価報告書を参考とし経年変化も確認しながら進めたい。最初の委員会では、委員のコメントの入った報告書を準備して会議を始めたい、可能であれば報告書の原案ができていれば良いとは思いますが、委員会評価の説明、評価のポイントをレジメの形で提案できている段階で最後の委員会を招集したい。

来年度は令和4年度の実施事業をご審議いただくので、よろしく願います。【柴田委員長】

3 その他

子ども家庭部長挨拶

～閉会～